



日本共産党 京都市会議員  
ひぐち英明  
議会報告

HP: ひぐち英明

検索

第324号 2017年11月5日

みなさんのご意見・ご要望をお寄せください!

# こんにちは ひぐち英明です

連絡先:日本共産党左京地区委員会 Tel761-6341  
:左京生活相談所 Tel781-6622

## 9月決算議会で論戦 くらしの予算の増額はできる

9月の決算議会（2016年度分）が終わりました。

この議会で私が一貫して追及したことは、市長がなぜ市民のくらしを切り捨てることばかりに力を注ぐのか、という点です。

結論から言うと、国が社会保障制度を切り捨て、地方への予算も切り捨てる政治を進めていることに対して、市長がそれを容認してしまうため、結局対策という市民のくらしの予算を削ることばかり、ということになっています。

### ■ 全く不十分な社会保障関連経費

京都市全体の社会保障関連経費は右肩上がりが増えていきます。これは、国において社会保障費が増やされているからです。しかし、国も本来増えるべき自然増部分が6,700億円（2016年度）だったものを1,700億円も減額してまったため、全く不十分であり、医療・介護・年金などの制度改悪が行われています。

高すぎる国民健康保険料、介護保険料・利用料などに苦しむ、市民の生活に寄り添うのであれば、国の不足分を京都市が補うことこそ求められています。ところが驚くことに、京都市の社会保障関連の独自予算（一般財源ベース）は4年間も据え置かれており、自然増分すら増やしていない、つまり、実質マイナスと言ってもいい内容となっています。

### ■ 厳しい暮らしの実態が放置される

その結果何が起きているかと言えば、国民健康保険や介護保険以外の分野でも、修学院保育所などの公立保育所の廃止、急増する違法「民泊」対策の職員の削減、京都府内最低の子どもの医療費制度、隠れ待機児童は毎年500人以上などなど、暮らしを取り巻く厳しい状況は枚挙にいとまがありません。

これらは、仕方がないことでしょうか。いいえ違います。私は対案を示しながら、議会論戦を進めました。

### ■ 財源はある

まず大事なことは、国が社会保障費を減らしていることのツケが市民に回ってきているのですから、このことを徹底的に批判する必要があります。しかも、ただ批判するだけでなく、その財源がどこにあるのかを示すことが重要です。

私は、史上空前の儲けをあげている大企業が、様々な特別減税の恩恵を受けている結果、中小企業よりも払う税率が低くなっていることを指摘。こうした不公平な税金の仕組みを改め、大企業にもせめて中小企業なみに税金を払ってもらうことで、財源を確保し、それを社会保障予算と地方交付税に回すよう国に提案すべき、と迫りました。

### ■ 国言いなりの市長

ところが市長は「国も財政が厳しい」と容認する認識を示すばかりで、この点に関して国に何も言おうとしません。くらし

切捨ての国の方針をそのまま京都市に持ち込むのですから、これでは、市民のくらしは厳しくなるばかりです。

### ■ 京都から政治を変えましょう

同様のことが京都府でも行われています。来年4月は知事選挙です。国言いなりの政治を京都から変えるために、ご一緒に力を合わせましょう。

## 衆議院選挙終わる 市民と野党の共闘をさらに前へ



共産党の応援にたくさんの方に駆けつけていただきました。

衆議院選挙で、たくさんの方から共産党へご支援、ご協力いただき、本当にありがとうございました。

共産党の議席を減らしてしまったことは大変申し訳なく思っています。同時に、共産・立憲民主・社民などの市民と野党の共闘勢力は、38議席から69議席へと前進しました。

京都においても、市民と野党の共同をさらに前進させるために、ちさか拓晃ともども全力を尽くします。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

## 左京平和の夕べ



毎年恒例の「左京平和の夕べ」が行われ、富田宏治先生（関西学院大学法学部教授）が核兵器禁止条約の意義について詳しく講演がありました。

### ○ ひぐち英明 ホット・コム ミニ版 ○

安くお買得のツバス（ブリの小さいサイズのお魚）の刺身を短冊で買ってきました。普通はそのまま真っすぐに切る、いわゆる「平作り」という切り方をしています。

次女（中学1年）に「切って」とお願いしたところ、「お刺身の切り方なんか分からない」と言いながら、どうやらスマホで調べたらしく「平作り」ではなく、フグなどの刺身の時の切り方である「そぎ作り」で丁寧に切ってくれました。

切り方で味もこんなに変わるのか！と驚くほどのおいしさでした。さすが料理好きの次女です。